

## メイキング ザ 子ども環境フォーラム 2022

子ども環境フォーラム2022は、3度目のオンライン開催となりました。開催に先立ち、小中学校に参加募集のチラシを配布するとともに、参加方法を説明する YouTube 動画をアップしました。この結果、29の小中学校から73名の小中学生に参加していただくことができました。このうち、パソコンからの参加者が70%、スマホからの参加者が19%、タブレットからの参加者が11%でした。

当日は、Zoom ウェビナーを使用して川口市地球温暖化防止活動推進センターから配信しました。

第一部の「環境活動発表」では、3つの団体からビデオ録画による発表と、見沼自然の家近くよりスマホを活用したライブ配信による発表を行いました。いずれも非常に安定した品質で配信できたと感じています。

第二部の「環境講座」は、20年以上も野生のシロクマの写真を撮り続けている自然写真家、丹葉暁弥さんから「地球温暖化と白くま」と題して講演をしていただきました。

今年の子ども環境フォーラムは、過去の課題を踏まえた事前準備の甲斐もあり、ほぼ予定通りにスムーズに運営することができました。

また、Zoom の機能を用いて参加者のみなさんがスタンプを送ってくれたことで、主催側としてもリアルタイムで子どもたちの反応を感じられ、対面開催とは異なる形での「つながり」を感じることができました。皆さまのご協力に深く感謝いたします。

今後とも、より多くの子どもたちに「地球環境を取り巻く状況を伝え、環境に配慮する意識を高めてもらう」ために、より良い開催方法を継続的に検討していきたいと考えます。

### 参加者アンケートの結果について

フォーラムの最後に、参加者にフォーラムについてのアンケートを、Zoom ウェビナーの「投票」機能を活用して、画面からボタンをクリックまたはタッチして回答してもらいました。

フォーラムの内容については、良かったとする人が93%、普通とする人が7%であり、良くなかったとする人は0%でした。昨年と比較すると、良かったとする人が11ポイント増加しました。また、フォーラムの時間の長さについては、ちょうど良かったとする人が74%で、長かったとする人が19%、短かったとする人が7%でした。昨年と比較すると、ちょうど良かったとする人が29ポイント増加しました。ほぼ予定通りの時間で終わられたことが評価されたものと思います。

ご意見は今後の開催に活かしていきます。ご協力ありがとうございました。

### 編集後記

今年度も、子どもたちが集まる対面式はまだ難しいと判断し、昨年引き続きオンライン開催としました。

今回は、環境講座と活動発表の2本立てで開催しました。

環境講座は、長年白くまの撮影を続けている丹葉暁弥先生にお話いただきました。地球温暖化の問題を、知識だけでなく、“心”で感じて欲しいと考えたからです。お話の最中、子どもたちから寄せられたたくさんのハートや笑顔のスタンプから、子どもたちの心に届いていたことが伝わってきました。活動発表は、いずれも子どもたちが身近なところから楽しく活動していました。

このフォーラムは、2004年から始まり19回目の開催となります。様々な環境問題に対し、これからも子どもたちひとり一人の取り組みをサポートしていきたいと考えています。

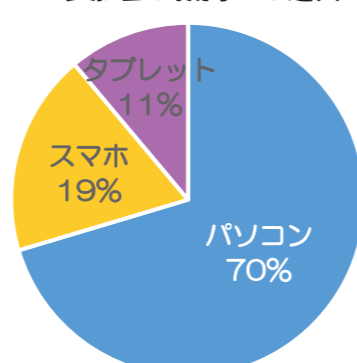
最後に、ご後援いただきました市教育委員会、ご協力いただきました関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございました。

#### 参加方法の YouTube 動画

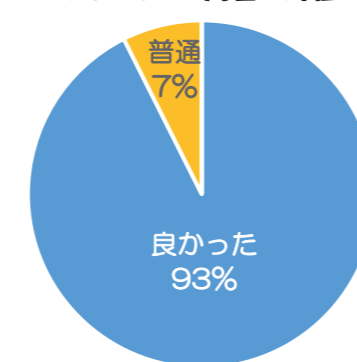


センターでの配信の様子

#### 参加者が使用した道具



#### フォーラムの内容の評価



発行 2023年1月  
認定 NPO 法人川口市民環境会議  
<http://www.ne.jp/asahi/eco/ecolife>

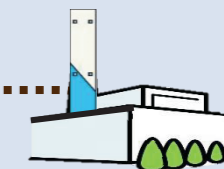
# 子ども環境フォーラム2022

## — オンライン開催報告書 —

2022年  
11月19日(土)実施



見沼自然の家



朝日環境センター・リサイクルプラザ  
川口市地球温暖化防止活動推進センター

## 豊かな自然を 守ろう・育てよう!



主催：認定 N P O 法人川口市民環境会議

(川口市地球温暖化防止活動推進センター指定団体)

後援：川口市教育委員会

### プログラム

〈敬称略〉

13:30	フォーラム開会あいさつ	浅羽理恵 武邊弘徳
13:35	1部 環境活動発表 ・安行小環境委員会 ・安行小こどもエコクラブ ・戸塚南小・戸塚南小あすばるエコクラブ ・川口自然っ子クラブ	
13:50	2部 環境講座「地球温暖化と白くま」 講師 自然写真家	丹葉暁弥
14:30	閉会あいさつ	斎藤照夫



この事業は公益財団法人サイサン環境保全基金の助成金と、株式会社 銀座コージーコーナーの寄付により実施しました。



# 第一部 環境活動発表

子ども環境フォーラム2022は、11月19日(土)に、川口市地球温暖化防止活動推進センター、リサイクルプラザ、見沼自然の家をリモート方式でつないで実施しました。市内29の小中学校から73名のお友達が参加し、いろいろなことを学び、環境のためにできることを考えました。



# 第二部 地球温暖化と白くま

**安行小環境委員会**  
安行小のエコ活動は身近なSDGsの取り組みです。牛乳パックを集め、洗って乾かし、箱につめて、紐でしばってリサイクルに出してトイレトーパーとなります。紙の原料の木を切る数を減らし、森を守る活動、植林と同じです。給食のデザートのは時はコンポスト活動を行っています。皮を捨てると燃えるゴミになりますが、コンポストにすると皮が土に戻ります。ごみを減らし、二酸化炭素も出しません。活動は「くすのきチケット」という環境通貨を使って楽しく環境活動を行っています。



**安行小子どもエコクラブ**  
安行小子どもエコクラブでは、環境アドバイザーの横山隆隊長を講師にして、学校の隣にある安行原自然の森公園でバッタの飛行距離を競う「安行小バッタ選手権」を行いました。優勝はツチイナゴで12m57cmの大記録。おめでとうございます！第2位のイボバッタは7m71cm、第3位のイボバッタは5m32cm、特別賞はオンブバッタの57cmでした。中学生のツユムシの飛距離24m60cm。全国バッタ選手権競技会の認定証が来ました。



**戸塚南小・戸塚南小あすばるエコクラブ**  
戸塚南小学校では、学校の南側の斜面林で、竹林の間伐をします。年に4回、竹林の整理をして、春にはタケノコ堀をします。この斜面林には水路があり、アカガエルが住んでいます。アカガエルの産卵は毎年2、3月で、おたまじゃくしの時は水路で過ごし、手足が出ると林で過ごします。たくさんの生き物が住むこの林をみんなで守っています。



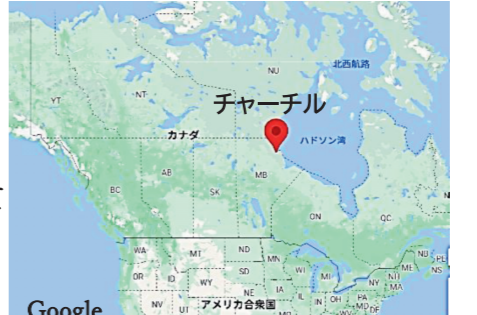
**川口自然っ子クラブ**  
自然っ子クラブは見沼自然の家を中心に4つの活動をしています。一つ目は米作りで、収穫したお米1束に1,698粒のお米ができてビックリしました。二つ目は生き物調査です。田んぼの土の中の生き物を調べたら糸ミミズ、すじえび、タニシなどがいました。見沼には絶滅危惧種の蛸もいて、保存に力を入れています。見つけた植物や虫はカード図鑑にし、植物175枚、生き物100枚、鳥45枚になりました。



三つ目は自然観察会や外来種退治です。外来の植物は昔からの植物の生えるところを覆って、日本の植物が育たなくなるため抜いたりします。自然観察会ではオオオナモミなどのくっつき虫と呼ばれる種を投げあって遊びました。また、葉を二つに折っても葉脈が伸びて落ちないみずぎの糸釣り葉を紹介しました。四つ目は世界の人と繋がる活動をしています。ラオスの子供たちに文房具やおもちゃを送る活動や、ボルネオ島の森林と動物たちを守る活動をしています。川口自然っ子クラブは楽しい活動がいっぱいです。



**地球温暖化と白くま**  
自然写真家 丹葉暁弥さん  
皆さんこんにちは。シロクマ写真家の丹葉暁弥と申します。カナダ北部にあるチャーチルという小さい町には、冬になるとシロクマたちがいっぱい集まってきます。シロクマたちは海が凍ると、ここからアザラシを捕りに長い旅に出ます。ここが一番最初に凍り始める場所だということを知っています。夏の間は、シロクマは何も食べません。海が凍っている期間だけ餌のアザラシを食べられるので、1年のうちの約半年ぐらしか食べる時間がないんです。残りの半年間は、お腹をすかせた状態でじっとしていることが多いですね。これはもうすぐ雪が降る直前の写真です①が、シロクマが一番やせている時で、ちょっと毛もあまりフサフサしてないですね。



チャーチルには1年に1度だけシロクマの仲間達と再会します。ここに5頭のシロクマが映っています②。ただ、昔は、多い時には20頭ぐらいのシロクマの姿を見ることができたんですが、シロクマの数は年々減っています。チャーチルでは、地球温暖化によりハドソン湾の結氷の開始が1ヶ月近く遅くなっていて、これは、シロクマたちにとって、餌を食べる期間が短くなるという深刻な問題です。③これはシロクマの親子です。本当にモフモフだと思いませんか。とてもかわいいですね。ところが、今、シロクマの子どもが生きていける確率、「生存率」はとても減っているんですね。2頭の赤ちゃんのうち1頭しか育てられないようになってきています。これは、海の氷が張る期間が短くなってアザラシを食べられなくなってきて、お母さんの栄養が足りなくなり、子供を育てるのが難しくなっているんですね。私がどうやって撮影しているのと聞かれることがあるのですが、多くは車の中から撮影しています。④これは、シロクマが何してるのって遊びに来たような感じで、ボンネットに手をかけてのぞき込まれたときの様子です。こちらは、早く海が凍らないかなと途方に暮れて待ち続けているシロクマの姿です⑤。このまま地球温暖化が続くと、あと30年ぐらいで、この辺からシロクマたちがいなくなってしまうと言われています。そうしないために、私たちは、いらねえ電気がか、無駄なことを少しでもやめて、二酸化炭素の排出を減らし、地球の温度が上がることを防いでいかなきゃと思っています。皆さんもこれから地球環境について学んでいってほしいんですけど、シロクマの住んでいる世界が、少しでもよりよい地球になるように頑張ってください。